

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400351		
法人名	社会福祉法人 函館光智会		
事業所名	老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉(ユニット1)		
所在地	北海道函館市亀田中野町278番地53		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0171400351-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 理念に掲げている「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を実践することで、入居者へ穏やかな生活を提供できるよう努めています。
- ② アニマルセラピーを実践することで、動物(猫・ポニー・山羊を飼っています)との触れ合いを通じ、癒しを提供できるよう努めています。
- ③ 函館市の郊外にある為、様々な木々、草花、綺麗な空気に囲まれた自然の中で生き活きた生活を過ごせ敷地内にある畑では農作物の栽培や収穫が出来ます。
- ④ 協力医療機関との連携がスムーズです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「老人グループホームシルバービレッジ 函館あいの里・泉」は函館駅より車で20分ほどの距離で、古くからの戸建てと新しい住宅が混在する函館市郊外、下赤川地区の自然豊かな小高い丘の上に2000年に開設し、以来理念である「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を実践し利用者の穏やかな暮らしを支援している。建物は木造ステンレス銅板葺き造りの2階建てで2ユニットを有している。事業所の周囲は理事長が自ら木を倒し、自然の地形を活かして造った庭は利用者や地域の方々の方々の恰好の散歩コースになっていて、季節ごとに変化する景色や飼育している動物との触れ合いを楽しんでいる。手入れが行き届いた前庭に建つ「グループホーム発祥の地」の石碑は訪れる人を優しく迎えてくれる。事業所の玄関に置かれたコート掛けは理事長が自然の木を利用して手作りしたもので、素朴で家庭的な雰囲気を演出している。当事業所の特筆すべき点は常に利用者のペースに合わせた徹底した個別ケアである。具体的には起床や食事の時間を自分の家のように自由に行っている。外出や外食は本人や家族が希望すれば職員が個別対応している。化粧やマニキュアなどのおしゃれも職員と一緒に楽しんでいる。画一的なケアでなく本人が生活しやすい様に気持ちに寄り添い、最終までその人らしく伸び伸び暮らせる様に支援していることである。また、職員が常に心がけている事は「ゆっくり・はっきり・分かりやすい言葉で」話す、笑顔や笑いを絶やさない、事業所内は走らない、'九感'を刺激するケア、生活リハビリテーションを兼ねた作業は職員と一緒にするなど、理念の「ゆっくり・いっしょに・たのしく」が職員一人ひとりの心に根付き、日々様々なケア場面で理事長・管理者・職員が徹底した理念の実践に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、施設入口に運営理念を掲げて、常に理念の実践化に向けたケアに取り組んでいます。	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を理念とし、事業所内に掲げ、利用者や家族に約束事として提示し、理事長は朝のミーティングや会議で理念の旨を説き、全職員が思いを一つにし実践している。家族も理念を理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設敷地内の散歩等はオープンにしています。又、町内会に入会しており、行事参加も可能な限り行っています。	感染症対策の為、町内会の行事に参加する事は少なくなっているが、敷地内は以前と変わらず地域の方々の恰好の散歩コースとして活用されている。知人から野菜の差し入れがあるなど、日常的な近所付き合いは途切れることなく続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防対策の為、運営推進会議を開催できませんが、サービスの評価等について真摯な姿勢で受け止めて、サービス向上に努めています。	感染症対策の為、運営推進会議は中止となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会から一般市民向けの認知症についての相談業務を受託しています。	2か月に1回、市社会福祉協議会より認知症についての相談業務を受託するなど、専門性を活かした役割を担っている。市や包括支援センターの担当者とは介護保険更新時や相談事があつた時に直接出向いて、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	魔の3ロックは絶対に行わない意識を強く持ち、入居者が自由な動きが出来る様に図っています。	職員は常にフィジカル(身体)ロック・ドラッグ(薬)ロック・スピーチ(声)ロックにならないように心がけている。理事長は日々勉強であることを全職員に意識づけ、利用者の安全を優先しながら自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等を通して、高齢者虐待防止等について話し合っています。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を交わす際は十分に時間をかけて説明し、理解と納得を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、入居者の希望や意見等を聞いたり、探っています。又、家族の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善する様に心掛けています。	利用開始時と6か月ごとに「希望の処方箋」で利用者や家族から意見や希望を聞き、理事長・管理者・全職員で話し合い、結果を運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善する様に心掛けています。	理事長・管理者・職員はざっくばらんに話し、風通しの良い働きやすい職場環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度、状況の変化や要望に出来るだけ応じた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつながる様に配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の実践場面の中から学習素材をピックアップし、ミーティングやカンファレンスで話し合う機会や外部研修や市内の連絡会の参加にて学習を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内の連絡会の参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で利用者の想いやニーズ、生活習慣や病状を把握しており、環境が変わることへの不安を取り除ける様に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接で家族のニーズ等を十分に傾聴し、信頼関係づくりに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極めて、柔軟な対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをしてあげているのではなく、入居者に教えるを請うているという姿勢が大切と教育しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に行っており、状態に変化が生じた場合は随時来所してもらい、現状報告を行っています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策の為、状況に合わせた面会制限や事前予約での面会を実施する事により、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めています。	面会は感染症対策の為、事前予約をして別室で短時間で行い、整髪・散髪は訪問理美容を利用し、墓参りは家族と一緒にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者と馴染みの関係が出来る様にカップリング、グルーピングの手法を用いて、孤立しない様に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関の紹介や相談を受け入れる等、継続的な関わりを必要とされる入居者、家族に対して付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から希望を聞き取り、把握に努めています。又、言葉や表情、仕草等から感じ取ることが出来ています。	利用者は職員と馴染みの関係が築かれると日々の会話の中で「最期までここで居たい」・「ここで亡くなりたい」・「頼むね」など自らの心の内を話してくれる。思いは記録して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネジャー等と面接することで生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察から心身状態や本人が出来ること、出来ないことの把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自のアセスメントシートを活用し、カンファレンスで話し合い、利用者や家族の意見、要望を取り入れながら、介護計画を作成しています。又、概ね6ヶ月に1度や利用者の状態変化に応じ、その都度、現状に即した介護計画を見直し、作成しています。	6か月ごとにカンファレンス・アセスメントを行い、家族からの「希望の処方箋」を基に利用者の意向も反映した介護計画を作成している。体調に変化があった時は検討し、現状に即すよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活から個々の特徴や変化を記録、申し送り等で情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出、外泊等、利用者や家族のニーズに対応できる様に柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて対応しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科、歯科医他)が中心となって受診支援が来ています。	全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、受診は職員が同行している。協力医からは毎週、医師と看護師が交代で来所し、夜間や緊急時に24時間対応して安心できる医療体制を整えている。	

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していませんが、必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員に相談しています。又、定期的に往診医や訪問看護師が来所した時や随時、気付いた事や日常の様子等の情報を提供しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員がほぼ毎日面会を行い、その都度状態の報告を受けて、退院の目途等を調整しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、ターミナルケアの方向性について家族等と話し合っている。又、利用者がより良く暮らせる為に出来ることを見極め、変化に対応したケアが行える様に努めています。	終末期ケア、看取りについては本人と家族の希望を基に家族・事業所・協力医療機関が話し合っ最善の方法をとることを旨とした説明をしている。状態の変化に応じて、理事長が家族・職員に説明し、家族の意向を医師に伝え方針の統一を図りチームで支援している。今までに数多くの看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員の指導を受けたり、施設独自の緊急対応マニュアルを用意しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策を整備し、避難訓練を行うことで対応が出来る様に努めています。	新型コロナウイルス感染予防の為、必要最小限の人数にて(有)北星防災の立会いのもと、消火器の位置や使い方についての確認、119番通報要領の確認、避難経路に避難障害となる物品等はないかを確認している。また、食料を備蓄し、停電に備えて発電機も用意している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮しています。	個別ケアを大切に考えて、馴染みの関係作りが出来ると家族の了解を得て温かさの伝わる方言で話したり、本人が心地よく受け入れられる呼び方にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思、希望が表現できる様な声かけや表情、仕草等にも十分に注意し、自己決定し易い支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等、一人ひとりのペースに合わせた暮らしになる様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に身だしなみやおしゃれが出来る様に支援しています。又、定期的に訪問理美容、地域の理美容店を利用しています。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなる様に味や彩り、盛り付けにも工夫を凝らしています。又、一人ひとりの状態に合わせて準備、片付けを手伝ってもらう事もあります。	食事は健康のパロメーターと考えており、ミキサー食やきざみ食であっても陶器の食器に彩りよく盛り付け、見て楽しみ、香りで楽しみ、味わって楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れ、食事や水分の摂取状況を把握し、状況に応じた食事介助を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいと就寝前の義歯洗浄を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察により、排泄パターンや習慣を把握し、出来るだけトイレで排泄できる様な声がけや支援をしています。	利用者の落ち着きのない行動「そわそわ」「うろうろ」を見逃さず、さり気なく声かけや誘導をして、トイレで排泄が出来る様に支援している。排泄用品は家族と相談して決めている。夜間は睡眠を優先し個別対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容、持病等を考慮し、運動量を検討、実施しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方に関しては身体状況に応じて、順番等を考慮しています。	週2回(月・木)の午前中に行い、入浴の日であることを意識付けしている。車いすの利用者も介助用リフトを利用して浴槽に浸かり、ゆっくりと暖まる事が出来る。入浴後は本人の好きな飲み物を用意したり、女性の利用者は髪を整えたり、化粧水で肌の手入れをして、入浴後の楽しみも欠かさない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の中で生活のリズムを整える様に努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できる様に支援し、症状の変化を確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、テーブル拭き等、入居者の心身状態や生活歴に応じた役割や楽しみ事を支援しています。			

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内を職員と一緒に散歩、日光浴、焼肉等を楽しんでいます。又、年間行事は花見、りんご狩り等に出掛けています。	天気の良い日は敷地内を職員と一緒に散歩をしながら、飼育している動物とふれあい、季節ごとに咲き誇る花を愛で、菜園の野菜の成長や収穫も楽しんでいる。天気や気温に合わせて、近くまでアイスクリームを食べに行ったりしている。花見やりんご狩りの日には弁当を作り、事業所内で楽しんでいる。日光浴を兼ねて職員と一緒に外でじゃがいもの皮むきなど、料理の下準備をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や状態を見極めて、小額の金銭管理を行ってもらう場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望と状態に応じ、事務所から電話が出来る体制を作っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には草花や馴染みの道具を飾ったり、ソファを用意し、家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせる様に工夫をしています。	居間の大きな窓からは事業所に入出入りする人の姿を見ることが出来、窓を開けて通る人に声かけをするなど、孤立感のない造りになっている。居間は2つの空間を作り、それぞれにソファを配置して、気に入った場所でゆっくりと寛げる様に工夫している。食堂はカウンターキッチン側に位置し、食事のケアがしやすい様に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	シッティングコーナーやサンルームを用意しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な場合は馴染みの道具を持ち込んでもらいます。	可能な限り使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、自分の部屋として寛げる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ること、出来ないことを十分に把握し、落ち着いた生活が出来る様な環境づくりに努めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400351		
法人名	社会福祉法人 函館光智会		
事業所名	老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉(ユニット2)		
所在地	北海道函館市亀田中野町278番地53		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171400351-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 理念に掲げている「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を実践することで、入居者へ穏やかな生活を提供できるよう努めています。
- ② アニマルセラピーを実践することで、動物(猫・ポニー・山羊を飼っています)との触れ合いを通じ、癒しを提供できるよう努めています。
- ③ 函館市の郊外にある為、様々な木々、草花、綺麗な空気に囲まれた自然の中で生き活きた生活を過ごせ敷地内にある畑では農作物の栽培や収穫が出来ます。
- ④ 協力医療機関との連携がスムーズです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、施設入口に運営理念を掲げて、常に理念の実践化に向けたケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設敷地内の散歩等はオープンにしています。又、町内会に入会しており、行事参加も可能な限り行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防対策の為、運営推進会議を開催できませんが、サービスの評価等について真摯な姿勢で受け止めて、サービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会から一般市民向けの認知症についての相談業務を受託しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	魔の3ロックは絶対に行わない意識を強く持ち、入居者が自由な動きが出来る様に図っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等を通して、高齢者虐待防止等について話し合っています。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を交わす際は十分に時間をかけて説明し、理解と納得を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、入居者の希望や意見等を聞いたり、探っています。又、家族の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善する様に心掛けています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善する様に心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度、状況の変化や要望に出来るだけ応じた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつながる様に配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の実践場面の中から学習素材をピックアップし、ミーティングやカンファレンスで話し合う機会や外部研修や市内の連絡会の参加にて学習を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内の連絡会の参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で利用者の想いやニーズ、生活習慣や病状を把握しており、環境が変わることへの不安を取り除ける様に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接で家族のニーズ等を十分に傾聴し、信頼関係づくりに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極めて、柔軟な対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをしてあげているのではなく、入居者に教えるを請うているという姿勢が大切と教育しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に行っており、状態に変化が生じた場合は随時来所してもらい、現状報告を行っています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策の為、状況に合わせた面会制限や事前予約での面会を実施する事により、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者と馴染みの関係が出来る様にカップリング、グルーピングの手法を用いて、孤立しない様に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関の紹介や相談を受け入れる等、継続的な関わりを必要とされる入居者、家族に対して付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から希望を聞き取り、把握に努めています。又、言葉や表情、仕草等から感じ取ることが出来ています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネジャー等と面接することで生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察から心身状態や本人が出来ること、出来ないことの把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自のアセスメントシートを活用し、カンファレンスで話し合い、利用者や家族の意見、要望を取り入れながら、介護計画を作成しています。又、概ね6ヶ月に1度や利用者の状態変化に応じ、その都度、現状に即した介護計画を見直し、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活から個々の特徴や変化を記録、申し送り等で情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出、外泊等、利用者や家族のニーズに対応できる様に柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて対応しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科、歯科医他)が中心となって受診支援が出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していませんが、必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員に相談しています。又、定期的に往診医や訪問看護師が来所した時や随時、気付いた事や日常の様子等の情報を提供しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員がほぼ毎日面会を行い、その都度状態の報告を受けて、退院の目途等を調整しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、ターミナルケアの方向性について家族等と話し合っている。又、利用者がより良く暮らせる為に出来ることを見極め、変化に対応したケアが行える様に努めています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員の指導を受けたり、施設独自の緊急対応マニュアルを用意しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策を整備し、避難訓練を行うことで対応が出来る様に努めています。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮しています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思、希望が表現できる様な声かけや表情、仕草等にも十分に注意し、自己決定し易い支援を行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等、一人ひとりのペースに合わせた暮らしになる様に努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に身だしなみやおしゃれが出来る様に支援しています。又、定期的に訪問理美容、地域の理美容店を利用しています。			

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなる様に味や彩り、盛り付けにも工夫を凝らしています。又、一人ひとりの状態に合わせて準備、片付けを手伝ってもらう事もあります。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れ、食事や水分の摂取状況を把握し、状況に応じた食事介助を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいと就寝前の義歯洗浄を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察により、排泄パターンや習慣を把握し、出来るだけトイレで排泄できる様な声かけや支援をしています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容、持病等を考慮し、運動量を検討、実施しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方に関しては身体状況に応じて、順番等を考慮しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の中で生活のリズムを整える様に努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できる様に支援し、症状の変化を確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、テーブル拭き等、入居者の心身状態や生活歴に応じた役割や楽しみ事を支援しています。			

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内を職員と一緒に散歩、日光浴、焼肉等を楽しまれています。又、年間行事は花見、りんご狩り等に出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や状態を見極めて、小額の金銭管理を行ってもらい場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望と状態に応じ、事務所から電話が出来る体制を作っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には草花や馴染みの道具を飾ったり、ソファを用意し、家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせる様に工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	シッティングコーナーやサンルームを用意しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な場合は馴染みの道具を持ち込んでもらいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ること、出来ないことを十分に把握し、落ち着いた生活が出来る様な環境づくりに努めています。		

目標達成計画

事業所名 老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

作成日：令和 4年 1月 5日

市町村受理日：令和 4年 1月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を理念とし、事業所内に掲げています。常々、理事長は理念の旨を説き、全職員が思いを一つにし、理念の実践化に向けたケアに取り組んでいます。	理念の理解および実践により、利用者および家族のQOL(生活の質)の向上に努めます。	全職員は理念の理解および実践する為、OJTの活用を通じて実現します。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。